

## < 平成 26 年度に成果の上があった活動 >

- 農産加工でフルーツ・グレードアップ・・・・・・・・・・ 1
- めざせ高品質トルコギョウ・・・・・・・・・・ 2
- 優位性を立証！ソルトーマ・・・・・・・・・・ 3
- 今、水稻の湛水直播が面白いのです！・・・・・・・・ 4



## 「農産加工でフルーツ・グレードアップ」

担当：広域 高付加価値化 ・ 北後志支所地域第一係

### 「よいちフルーツグレードアップ研究協議会」設立

平成 25 年 5 月、果樹生産者、JAよいち、余市町、農業改良普及センターが連携し、余市産果実を利用して商品づくりを目指す「よいちフルーツグレードアップ研究協議会（以下「フルグレ）」を設立しました。「フルグレ」では、加工品の開発・製造・販売戦略等を研究し、付加価値の高い商品を創出することを狙っています。



加工販売企業・デザイナーを交えた意見交換会

### 研修会や試験販売の実施

「フルグレ」では、加工販売企業・デザイナーなどの専門家を交え、意見交換を行うことで商品を磨きあげ、札幌地下歩行空間で試験販売を行うなど、消費者の求める商品開発を進めています。

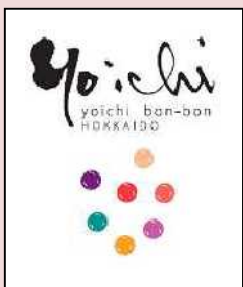


札幌地下歩行空間でのテスト販売

### 「まるごとフリーズドライ」の商品化

平成 26 年には、「フルグレ」で研究を重ね、商品化第 1 号となる「プルーンまるごとフリーズドライ」を開発・販売しました。現在、その後に続く商品開発を行っています。

### 地域ブランド化に向けて



検討中の統一  
ロゴデザイン

「フルグレ」では、果実加工品のブランド化に向け、統一ロゴの検討を進めています。今後、様々な果実加工品とおし、フルーツのさらなるグレードアップを目指していきます。

原料調達・  
販売者  
JA  
よいち

販売先  
余市・小樽・  
札幌・ニセ  
コ・倶知安

宣伝・広告  
HP・新聞・ラジ  
オ・Facebook・  
イベント等

加工(委託)  
管内加工  
企業



開発商品第 1 弾

「まるごとフリーズドライ (プルーン)」

### 「フルグレ」メンバーより

研修会での情報交換、札幌での試験販売など実践的な動きの中で、商品開発を目指しています。多くの人、特に道外の人に「余市の果実」を知ってほしいと思っています。

# 「ボリュームアップは根張りから・めざせ高品質トルコギキョウ」

担当：北後志支所 地域第二係

## 赤井川村花き生産部会(non-no(ノンノ))の悩み

トルコギキョウは赤井川村の主な生産物の1つです。生産部会 non-no (ノンノ=アイヌ語で「花」の意味)の10戸で栽培されています。non-noのトルコギキョウは、市場から品質を高く評価されています。しかし、近年、高齢化により会員の引退が目立ち、作付面積の維持と後継者への技術継承が課題です。また、技術的にはボリュームが少なくなることもあり、会員間の悩みの1つです。

## 根張り良くして、ボリュームアップ

「ボリュームのあるトルコギキョウにするためには、根張りが大切」と、部会と普及センターは、H25年度より作土層の拡大に取り組みました。H26年度は作土層を拡大した試験区を設けるとともに、ほとんどの会員のほ場の土壌硬度や根張り調査を行い、自分のほ場の様子を確認しました。



生産者と共に根張りを確認



H26年度の試験区は手掘り



H27年度は試験ほ場も機械化



作土層拡大試験で、ボリュームの差がハッキリ

## 会員間の情報交換で広がる取り組み

現地講習会は、会員の貴重な情報交換の場となっています。普及センターは、講習会時に試験の状況を紹介したり、各会員の生育や作業状況を情報提供しました。H26年度は前年よりも作土層の拡大への関心が高まりました。

H27年度はJAが窓口となり作土層拡大への意欲の高まりからデモ機を借り、より地域に波及しています。なかには手掘りし、試験区を設けた会員もいました。

## 生産部会ぐるみで高品質トルコギキョウへ

non-noにH27年度、新会員や研修生など若い仲間が加わりました。1日も早く自分達の技術を伝えようと、生産部会ぐるみで育成に取り組んでいるところです。

うちと比べてどうだ？



現地講習会で久々の情報交換

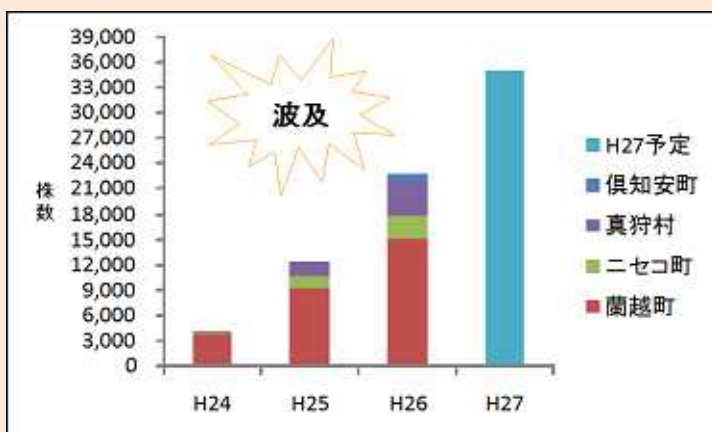
# 「優位性を立証！ソルトーマ」 ～ポリポット利用による高糖度トマト産地の育成～

担当：本所 地域第一係

平成 23 年に蘭越町の 2 戸から始まった「ソルトーマ」（水稻育苗跡ハウスを利用した、ポリポット利用による高糖度トマト）の取組が、平成 27 年度には 4 町村まで波及し、栽培戸数は 10 戸、栽培株数は 35,000 株へと大きく飛躍しました（前年度比 145%）。

また今年度から後志総合振興局事業（しりべし新規ブランド特産農産物拡大プロジェクト事業）を活用し、更なるブランド推進へ向けた「技術実証試験」「販路拡大支援」を展開しています。

平成 27 年度には、新たな取り組みとして、ソルトーマの機能性成分を実証し他とは違う優位性を販路チャンネルに反映させる試みを行いました。結果として、レチノール当量（ビタミンA）、リコピン、遊離アミノ酪酸（GABA）等の各機能性成分が高く評価され、今後の展開に期待がもてる結果を示しました。



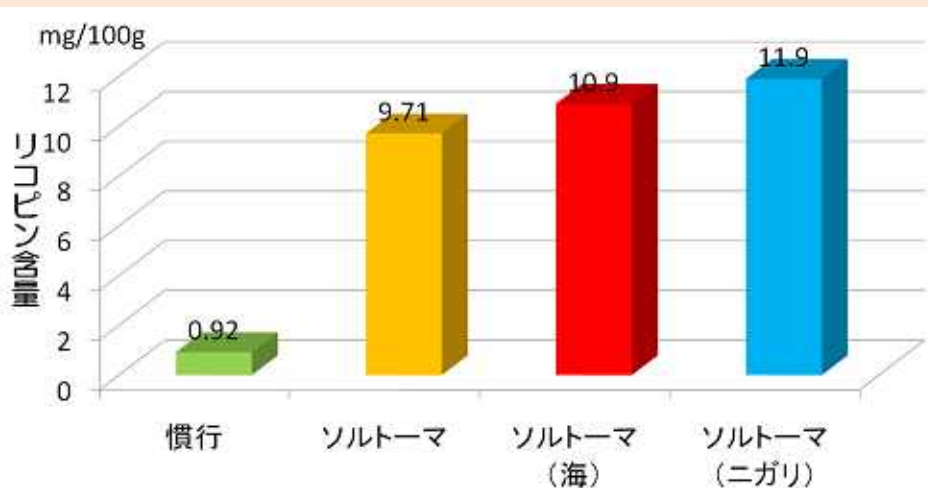
栽培株数の推移



栽培講習会



手塩にかけたソルトーマ



リコピン含量 mg/100g (財)日本食品分析センター

慣行…一般トマト  
ソルトーマ(海)…海洋深層水利用  
ソルトーマ(ニガリ)…苦汁利用



販促イベント(札幌地下歩行空間)

# 「今、水稻の湛水直播が面白いのです！」

担当：本所 地域第二係

共和町の直播栽培は、気象条件が似ている道南地域の水稲湛水直播栽培をモデルに行いましたが、導入当初は予想を下回る収量でした。先進事例調査や講習会で得た情報を基に実証展示をおこない、解決策を見つけ出した結果、安定生産技術が確立できました。



最初は多くの課題が出ました

平成22～24年

肥料不足：少ない施肥量、落水期間の窒素流亡、追肥の遅れ  
茎数不足：早すぎた入水、水の入れすぎ、鳥（カモ）の食害  
雑草の繁茂：除草剤散布の遅れ、復元田での直播



視察研修や講習会で  
最新の優良事例を取り入れた

平成22～26年



妹背牛町で全道一の湛水直播を視察



除草剤は種同時散布の試験



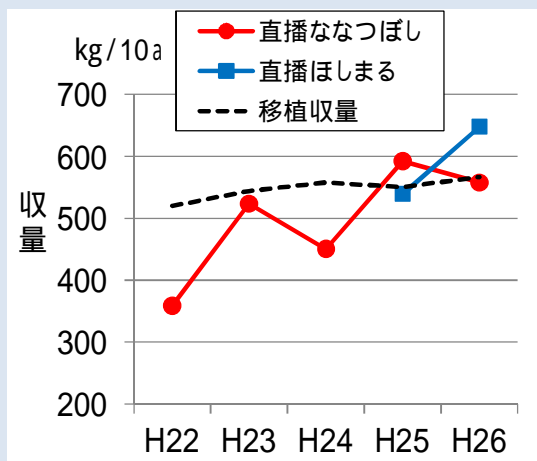
移植並の収量が確保できるようになった！

平成25～26年

緩効性肥料を基肥及び側条施肥で使用することで、窒素成分の流亡を防げ、追肥回数も軽減しました。

は種後、出芽の筋が見えたら予備入水を行うこと、分けつ始め（6/20頃）までは水深を3cm前後に保つことで、分けつを確保でき、鳥（カモ）による食害も抑えました。

は種同時散布ができる除草剤＋初中期一発剤の体系処理で、雑草を抑えることができました。



共和町の直播と移植の収量推移  
直播：現地試験ほ平均  
移植：北海道農林統計協会



直播が経営の中に取り入れやすくなった！

平成26年

直播を導入することで、4～5月までの労働が軽減できることが確認できました。

直播の収量が移植並に確保できるようになりました。

## 後志農業改良普及センター本所

住所 虻田郡倶知安町旭 57-1  
TEL 0136-22-1072  
FAX 0136-22-4744  
shiribeshi-nokai.1@pref.hokkaido.lg.jp

## 南後志支所

住所 寿都郡黒松内町字黒松内 309  
TEL 0136-72-3161  
FAX 0136-72-3456  
shiribeshi-nokai.minami1@pref.hokkaido.lg.jp

## 北後志支所

住所 余市郡余市町朝日町 11 番地 1  
TEL 0135-22-5135  
FAX 0135-22-5987  
shiribeshi-nokai.kita1@pref.hokkaido.lg.jp